五十字劇評NO.76

言わせて！今日の芝居

さなぎになりたい子どもたち

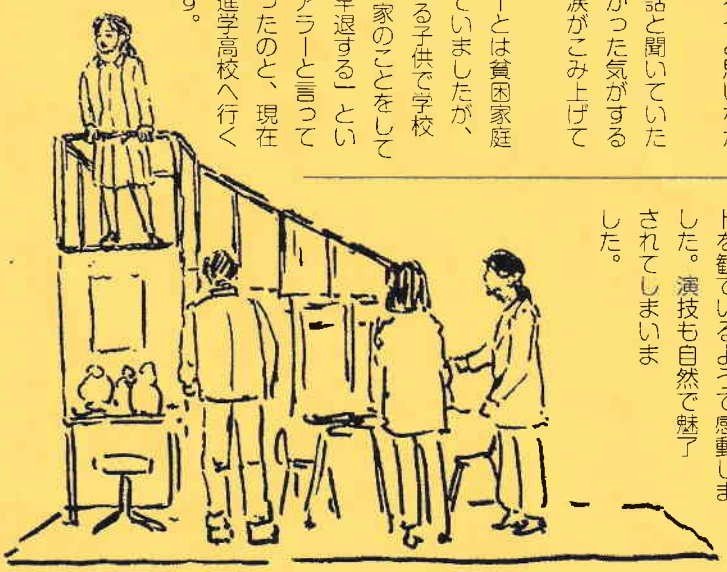
【50代】
▼家族、学校、いろいろと考えさせられる、でも、決して重苦しすぎない、面白く観ることのできたお芝居でした。

【60代】
▼「命」と向き合う人物のキャラクターとわかりやすい日常的内容が、回り舞台の階段と屋上と。感情表現に拍手。(女性)
▼題名の？はご愛嬌。教師・生徒・親の「今」を描いた秀逸な舞台であった。登場しない青木君が最も心に残った。(男性)

【70代】
▼私の50年前にもヤングケアラーの子はいた。昔は周りがほっとかない。手を差し伸べて見守りしてたように思った。(女性)
▼コロナ禍でマスクをしての舞台、セリフはいつものように聞こえるのだろうかと思いましたがさすがプロの皆さん。マスクをしてのセリフ発声法を研究したのだろうと思いながら観ていました。
　ヤングケアラーの話と聞いていたのに大人の事情が多かった気がするが、途中からなぜか涙がこみ上げてきました。
　私はヤングケアラーとは貧困家庭の子供のことと思っていましたが、「家族の世話をしている子供で学校を休む・早退する」「家のことをしていて学校に遅れる・早退する」といったことをヤングケアラーと言っていることを初めて知ったのと、現在の中学生は100%進学高校へ行くと思っていたことです。
　お芝居を観て「何かを知る・発見する・教えられる」とつくづく思いました。友人・知人などに声を掛けてみようと改めて思いました。(女性)

【80代】
▼身勝手な大人たちに起因する諸問題が、育てねばならぬ子どもたちを逆に追い詰める、苦々しさを感じた。(女性)

【性別・年代未記入】
▼昨日の演劇は、身近なドキュメントを観ているようで感動しました。演技も自然で魅了されてしまいました。



編集スタッフから

「さなぎになりたい子どもたち」とはどういう意味？又、ヤングケアラーが題材らしいが、登場する子供はたった二人？等々、タイトルやテーマから受ける印象と、実際の舞台とのギャップが少なからず評価を分けた作品だったように思います。
　でも、そうした先入観をとり払って観た場合、現在の中学校で起きるさまざまな日常を切りとった、優れた作品ではなかったでしょうか。
　この五十字劇評に寄せられた感想は、この作品の真意を真っ直ぐ受け止めて、問題点を考えていただき嬉しく感じました。